

たくまだい

第1号
発行 熊本託麻台病院
編集 病院広報委員会

ごあいさつ



理事長 堀尾慎彌

熊本託麻台病院は、昭和52年（1977年）8月に熊本市東部の託麻が原大地の上に建てられ、熊本市内第一号のリハビリテーション承認施設としてスタートしました。疾病を患った方々が、どんなに高度な障害のある方であったとしても、また不幸にも後遺症が残ったとしても、治療に当たるに付け、単に痛みや症状を取り除く事だけでは、真のリハビリテーション医療とは言えず、社会復帰を目指すことが使命と考えての設立でした。更に、21世紀に入り、疾病や外傷の治療と並行し、これらによって生じた障害の改善のみならず、その人の生活機能を再建し、より自立した社会生活が送られるよう医療・看護・介護・福祉を含めて包括的に支援することがリハビリテーション医療のより大きな役割でもあります。その社会復帰への流れの一つとして高齢者支援センター介護老人保健施設コスモピア熊本や在宅総合支援センター第二コスモピア熊本の施設も併設し、相互の連携体制の上にて在宅支援を目指し、より専門的医療・介護サービスを提供して参りました。今後もより一層充実強化し、その役割を果たして参ります。今般、病院部門の老朽化とリハビリテーションサービスの充実のため、回復期リハビリテーション機能中心の新病院として新築移転すべく、本年4月より工事が始まり、来年春に完成移転を目指しています。現在地は、在宅支援クリニックと既施設サービスの介護老人保健施設を含めた総合的な医療・介護・福祉サービスセンターとしての機能を再構築していくつもりです。地域や関係機関のご支援、ご協力の上にこそ当法人の機能役割を果たすことが出来ることを強く受けとめ、研鑽と努力を重ねて参りたいと存じます。

～新しい挑戦への第一歩～

熊本託麻台病院は新しい挑戦への第一歩を踏み出しました。平成25年春には熊本赤十字病院に隣接して、新しく病院を新築します。病院の広さは現在の2倍の面積になります。各病棟に200㎡の広いリハビリテーション（リハ）の訓練室を確保しました。病棟内でのチーム医療、回復期リハ病棟も58床から94床へ増床する予定です。長年の夢であったバランスの良い病棟、亜急性期の病態に対応できるように個室も増床し、急性期からもっと早期に入院ができるように、色々な工夫を取り入れています。小児リハもリハ室を拡充しましたし、平成24年5月からは電子カルテを導入し、診療部も消化器内科、神経放射線科と2名の常勤医師が仲間になりました。この1年間で新病院の準備を着実にしていく予定です。2025年、後期高齢者の患者さんは1.5倍になります。回復期リハ病院は急性期病院から1.5倍の患者さんを受けする必要があります。その為には、これまで積み上げてきた地域連携を更に強化し、亜急性期の管理をしながら、在宅へと早く移行しなければなりません。わたしたちはまだやらなければならないことがたくさんあります。365日リハ、チーム医療、リハ看護、在宅医療と課題は山積みです。病院全体が一致して組織の充実を図っていきたいと思います。ライフワークバランスと子育てをしても働いていけるように院内保育も導入することにしました。35年の歴史を踏まえて、平成25年春、新しい一歩を踏み出せることをドキドキの緊張と夢を見ながら楽しみにしています。地域連携なしにはこれからの地域医療は成り立ちません。これからの熊本託麻台病院の成長をあたたく見守って頂きたいと思います。



病院長 平田好文

病院基本理念

わたしたちは、地域の皆様が、安全に生き生きとした社会生活が送れるよう「ノーマライゼーション」の思想に基づき、保健・医療・福祉及び教育を実践します。

基本方針

1. 患者さま主体の医療を提供します。
2. 安全・安心の医療、看護ケアを提供します。
3. 信頼と期待の魅力ある病院をつくります。
4. 質の高い早期からのリハビリテーション医療を提供します。
5. 地域リハビリテーションを積極的に推進します。

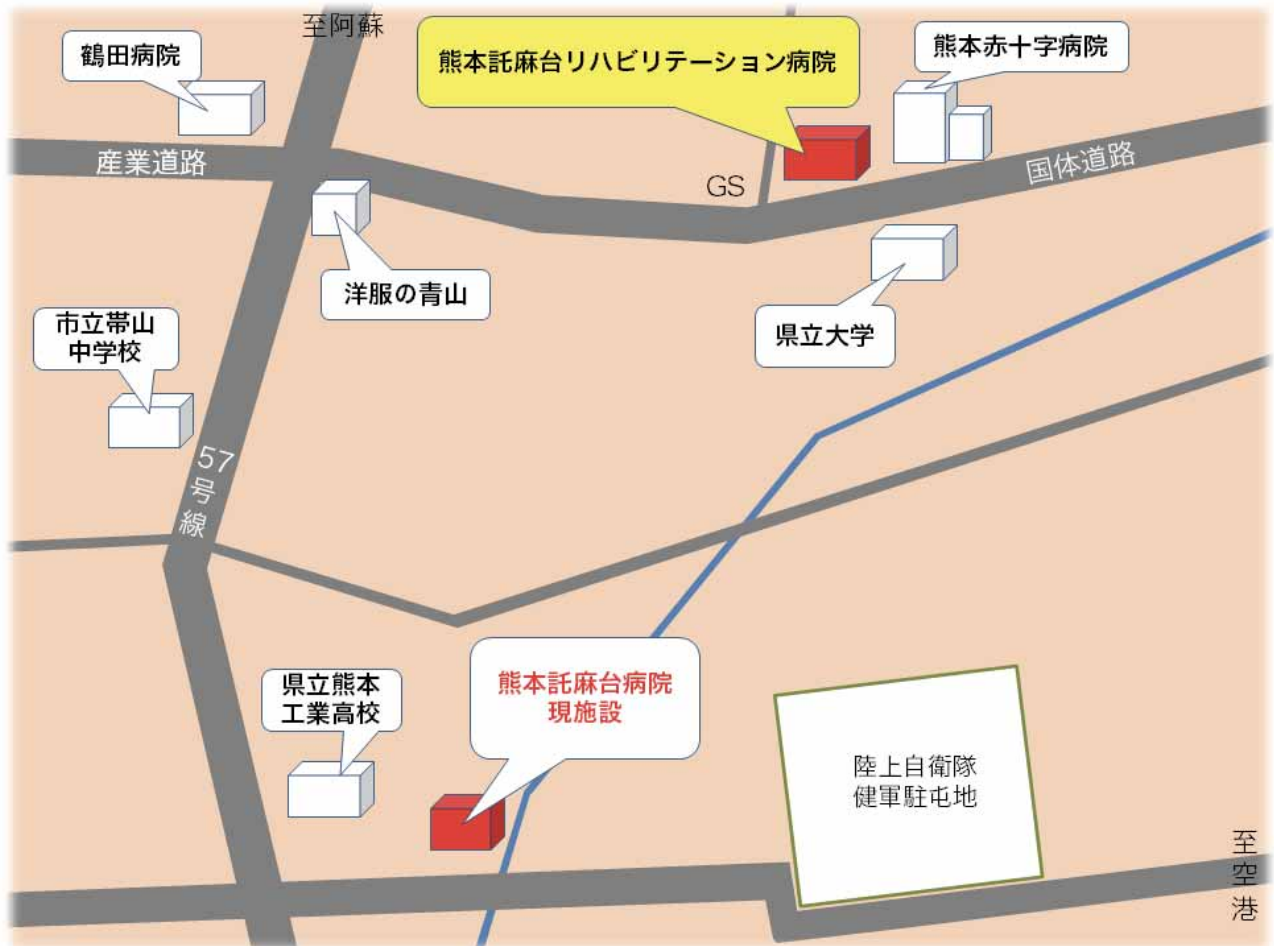
新 病院移転のごあんない

本院は、昭和52年8月1日に開院し創立35周年を迎えました。

数年来現有地病院での再開発を検討してきましたが、建築基準法等関係法律の問題もあり、移転候補地を新たな対応として模索してきました。このたび、旧免許センター跡地 熊本赤十字病院横 を取得したことで、再開発に向けて大きく前進することになりました。移転計画等の詳細は逐次ご報告いたしますが、事業計画は次のとおり予定しています。

・熊本の地域医療連携における回復期リハビリテーション医療を一層充実させることを目的に、高度なりハビリテーション機能を備えた病院の再構築を目指します。

・移転先である旧免許センター跡地に展開する予定の新病院と、現有地尾ノ上で事業を継続する2つの介護老人保健施設（コスモピア熊本、第二コスモピア熊本）や関連する在宅サービス部門との連携をより一層強化しつつ、引き続き地域における医療・介護のトータルサービスの充実を図ります。



新病院完成予想図



平成24年3月8日 起工式の様子

各部門よりご挨拶

看護部

紫陽花の季節を迎え、皆様、お元気でいらっしゃいますか。

熊本託麻台病院はおかげ様で今年35周年を迎えることができました。月日が経つのは本当に早いもので、私が就職した頃、病院周辺は一面黄色い菜の花畑で、幼い息子を自転車に乗せて保育園と病院を往復したことを思い出します。現在も職員の半数は子育てをしながら看護の仕事を頑張っています。少子化が進む中で、将来、この仕事を担う若者がどれくらいいてくれるだろうかと心配です。

子供たちは私たちの絆であり、夢です。皆の愛情をいっぱい受けて健やかに心優しい人に育ってくれることを願いながら、そしてぜひ、この素晴らしい看護や介護の道に進んで欲しいと思うこの頃です。



看護部

部長 小島 真理子

リハビリテーション部

熊本託麻台病院リハビリテーション部は、病気や事故等において発症した疾病や障害を少しでも改善する役割を担っております。救急病院から積極的かつ濃厚なリハビリテーションを目的に転院してこられた方々の正に回復を促進し、住み慣れた自宅に帰って生活ができるようにすることが第一義ですが、仮に長期的なリハビリテ



ーションの必要があって転院・転所をされたり、在宅生活に不安がある場合でも、同様に最大限の治療を行い、夫々の病院や施設あるいは在宅介護サービスにつなぐという、広い意味でのリハビリテーションが途切れることなく継続されるよう努めています。そのためにも日頃より自己健鑽を積み、常に最適な知識と技術を地域住民の皆様を提供できるよう今後とも精進してまいります。

リハビリテーション部

副部長 山田 隆治

事務局

医療法人堀尾会は現在約500名の職員数で、熊本託麻台病院の他、2つの介護老人保健施設や7つの在宅サービス事業を運営しています。事務部門は、各施設で医療や介護を事務的に支援する業務の他、総務、人事、財務、情報システム、経営企画などを担当する組織で構成されています。

平田病院長からの挨拶にもあるとおり、現在、全国の病院で医療に従事する多種多様な専門職種が連携・補完し合って適切な医療を提供する「チーム医療」が求められています。来年春のオープンに向けた当院の新築移転プロジェクトが進むなか、私たち事務部門もチーム医療の一員として、患者さまへの適切な医療やリハビリテーションの提供に貢献できるよう、努力して参ります。

法人事務局

事務局長 名倉 敏信

外来診療スケジュール

2012年7月

診療科		月	火	水	木	金	土
整形外科	午前	西郷	西郷	西郷	森	西郷	--
		森	堀尾	森		森	
	午後	堀尾	熊大医師	小川	熊大医師	--	--
リハビリ科	午前	大隈(再診)	小原	大隈(再診)	堀尾	大隈(再診)	担当医 (再診)
			前原		小原(再診)		
	午後	安川(再診)	安川(再診)	安川(再診)	安川(再診)	小原 安川(再診)	担当医 (小児再診)
内科 循環器科 消化器科	午前	飯田	宮瀬	飯田	尾崎	飯田	熊大医師
		宮瀬		尾崎		熊大医師	
	午後	尾崎	飯田	宮瀬	馬場	尾崎	--
脳神経外科	午前	平田	平田	--	村上	--	熊大医師 (第2週)
	午後	村上	--	村上	平田	平田	--
消化器外科	午前	--	--	萩原	--	--	--
	午前	--	--	--	--	--	--
神経内科	午前	--	--	--	宇山	宇山	--
	午前	--	宇山	宇山	--	--	--
発達小児科 発達神経科	午前	--	--	--	--	--	--
	午前	熊大医師	--	--	--	--	--
特殊 クリニック	午前	--	--	--	--	--	--
	午後	--	禁煙外来	--	放射線診断	義肢装具 クリニック (第1・3週)	熊大医師 (第2週)

診療時間、休診日などが変更になる場合がありますので、ご来院の際は事前にお電話にてご確認下さい。

TEL 096-381-5111



熊本託麻台病院

〒862-0913

熊本県熊本市東区尾ノ上 1-14-27

TEL : (096) 381-5111

<http://www.horio-kai.or.jp>